

平日と休日の迷惑メール数の変遷

20nn年6月20日
knnx1001 東京子

迷惑メールの社会問題化

- 電子メールは広く使われているが、迷惑メールも横行している。
- 1日に受け取るメールの90%ほどが迷惑メールであり、実際の業務に大きな支障をきたしている、という人もいる[1]。
- [1] 善福寺花子, 迷惑メールの現状と対策, 月刊セキュリティ20nn年4月号, 東女出版, 20nn年, pp. 23-24

仮説

- 業務でメールを利用する人は、休日には電子メールを読み書きしない。
- 迷惑メールを送信する側からすると、平日に迷惑メールを送る方が、迷惑メールも読まれる可能性が高い、と考えるのではないか。
- 迷惑メールを受け取る件数について、平日と休日で違いがあるのかを明らかにする。

迷惑メールの定義

- 迷惑メールは、以下のように定義される[2]。
 - サーバに過大な負担をかけてメールサービスの機能低下をもたらすことを目論んで大量のメールを送りつけるスパムメールや、望んでもいない商品の宣伝のメールなど利用者個人が受け取りたくないメール
- [2] 東京女子大学情報処理教育運営委員会, 情報処理技法(リテラシ)I テキスト 20nn年度版, 株式会社文伸, 20nn年, p. 73

迷惑メールの実態

- 迷惑メールの差出人は、一斉に迷惑メールを送信し、返信をしてくる利用者を待っている。そして、返信をしてきた利用者に対して、さらに多くの迷惑メールを送り続ける。
- メールソフトウェアに、迷惑メールを自動で振り分ける機能がついていることも多い。しかし、迷惑メールではないメールが迷惑メールとして振り分けられることもある。

調査方法

- 平日と休日で、送られてくる迷惑メールの量の違いの有無について明らかにする。
- 平日と休日の迷惑メールの件数を調査した。
 - 平日: 4日分
 - 休日(土曜日と日曜日): 4日分
- 調査日に祝祭日は含んでいない。

調査結果(平日)

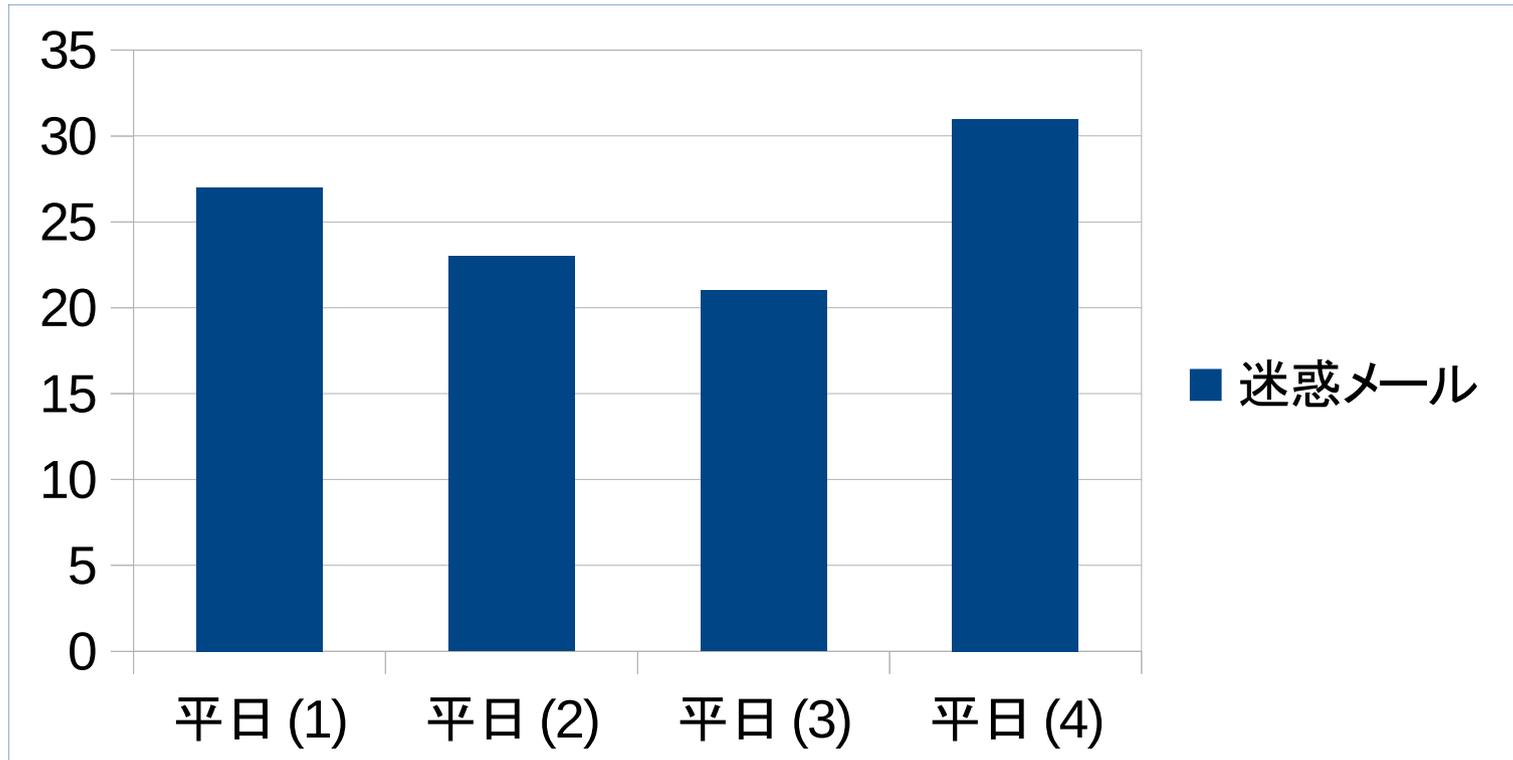


図1: 平日の迷惑メールの件数

調査結果(休日)

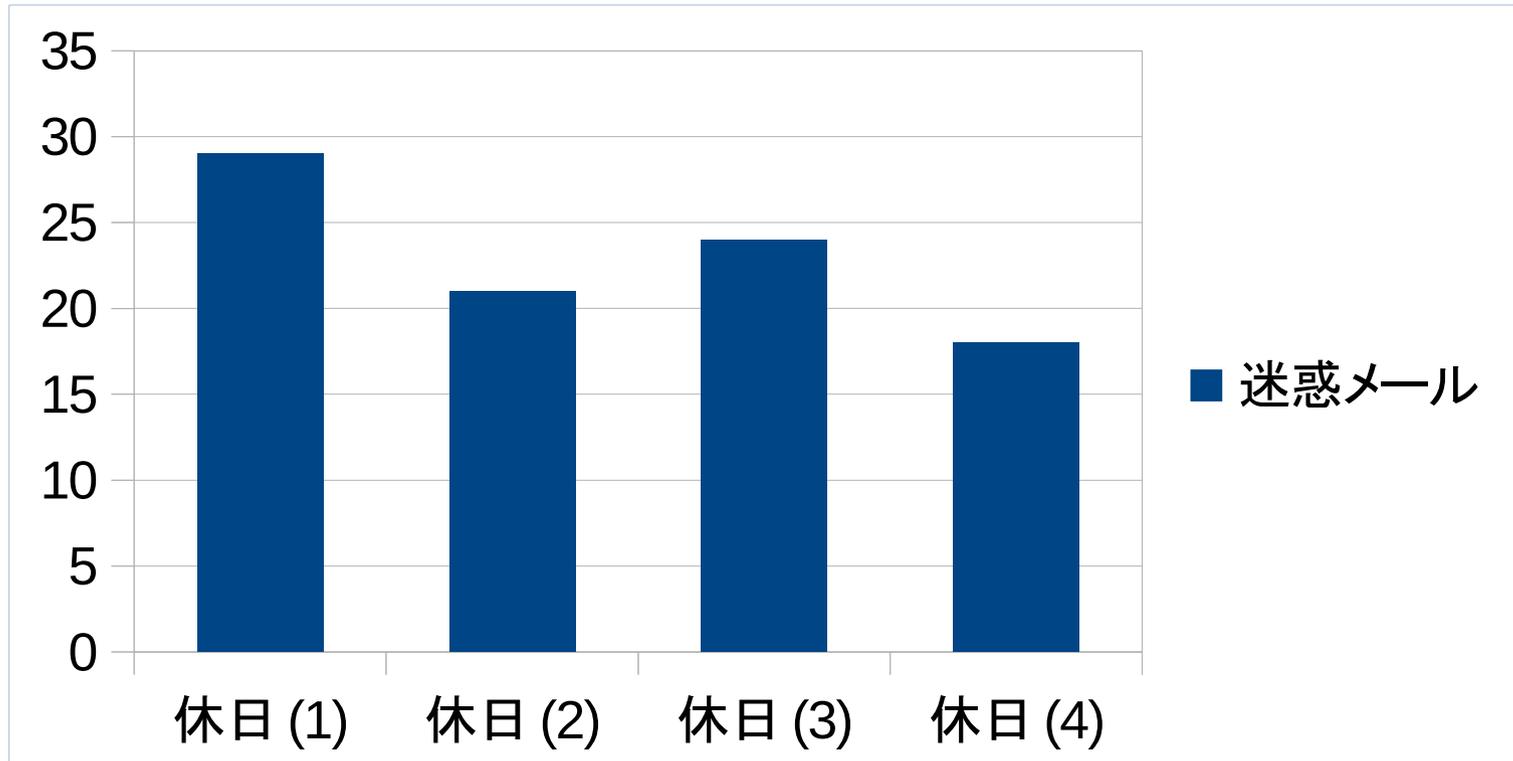


図2: 休日の迷惑メールの件数

考察

- 1日あたりの平均が、平日と休日で1.5件しか変わらない。
 - 平日: 平均25.5件
 - 休日: 平均23.0件
- 平日でも休日よりも件数の少ない日も存在する。
- 平日と休日の迷惑メールの件数の違いは誤差の範囲内。件数の違いはない。

結論

- 受信した迷惑メールについて、平日と休日の件数の比較調査を行ったが、大きな違いは見られなかった。
- 迷惑メールの傾向の分析には、本調査以外に、以下の調査が有効であると考えられる。
 - 迷惑メールの内容
 - 文章の言語
 - 差出人・返信先のドメインなど